

來ません、こんなときは、未成年の妻の爲めに別後見人を置いて、又未成年なる夫は自己後見人の補助を得て、其妻に對する夫權を行ふのであります。

第五、夫婦間の契約は婚姻中何時でも取消すことが出来ます。

婚姻中にした契約は、何時にても夫婦の一方から之れを取消すことは自由であります。然れども、契約の取消によつて第三者の權利を害することは許しません。それであるから、例へば夫婦の一方が他の一方より買受けた財産を既に他人に渡したときは、賣買契約を取消してもその財産は之を取戻すことは出来ません(未完)

忙中閑語

熊泉

三十六

▲二歳になるやならずの稚兒の、永らく腸胃の病に苦しめるが、急に重くなり行きて病院に入りたりといふに、同じ年頃の同じ病に悩める子持てる吾は、其症候原因など聞きたくて耐らぬ心地せらるゝまゝに尋ね見れば、何事ぞ、母なる人のかゝる子供を兎ある公園に伴ひ行きて、お汁粉を言ふが儘に與へたりけるとは、けうとさが上にもけうとう思はれて。夫も高等女學校まで御卒業遊ばせし母君とだにあるを、さては今時の女學校の育兒法の智識とはかゝるものにやありけん。

▲何時何地にやありけん、女學校の先生方の中に無頓着なる習字の先生の、よき程に年老りたるがおはしけり、ある日女先生方の前に來りたる二三

の生徒に向つて、物々しく申し聞かすのを聞けば
 「卿等も餘り深くは學問せぬものぞ、多く學べば
 何れも此處に居並ぶ先生等の様になり果つるもの
 ぞ」

▲女の先生にて、子供持てるは兎角缺勤多くて困
 る」と某校長の濫面作りて言ひ出でたるに對し
 「ざりながら、教育、殊に女子の教育には、家持
 ち子供持ちの経験ある先生こそ第一に適任におはさ
 すや」といへば、「さなりく、されば子供持ちたる
 経験ある寡婦こそ、最も教師に適當したるものな
 らん」と答へられしこそ、可笑しかりしか

▲世に子らの真中に立てる母よりも尊く見ゆるも
 のなし（前號口繪參照）と詩人ゲーテは歌ひぬ。
 嫉妬、怨恨、虚榮、慾望等の不徳を脱却せる婦人
 の眞美は尊いかな

▲結婚の時期を劃して三期とす、曰く情の時期、
 智の時期、意志の時期これなり。青春の血胸にもえ
 て、戀の外何物もなき時の夫は第一期に屬す、この
 期を過ぎて理性よく情を壓し冷靜に利害を判斷し
 て婚をなす、これ第二期の夫なり、意志の時期に
 至りては、即ち夫妻協力専ら事をなし、兒女の教
 育に力を致さんとす。一人にて此三期を経由す
 るものあり、或は第一期をかくあり、若しくは第
 三期に入りて始めて婚するものあり。但し第一期
 に於てするものは樂最も多くして過も亦少からざ
 るなり。

世の中もかくこそありけれ夢の間に

きのふの花は今朝の白雪

（久米幹文）